



学校だより

山辺里小学校

学校HP <http://saber-e.murakami.ed.jp>

令和3年10月15日 第6号

地域の方のあいさつ

校長 小川 誠

ある朝、地域の方が、校門に来てくださいました。

学校運営協議会の大滝会長さんと図書ボランティアの稲葉さんです。別々の日ではありましたが、お二人は、大きな声で『おはよう』と呼び掛け、子どもたちとハイタッチをしたり、一緒に遊んでくださったりしながら、子どもたちの様子を見守ってくださいました。お二人の「おはよう」の声は、ある子だけでなく、校門を通り過ぎるすべての子どもたちに向けられました。

その声が大きいのです。明るいのです。温かいのです。ですから、子どもたちは、私一人が立っているときよりも、ごく自然に思わず「おはよう」を返すのです。

そういえば、最近山辺里小学校の子どものあいさつが、春とは違ってきたように思います。まず、大きな声であいさつする子が増えました。少し遠くからあいさつをする子が増えました。そして、自分からあいさつする子が増えました。さらに、目を見てあいさつする子が増えました。

大滝会長さんや稲葉さん、様々な場面でかかわってくださる地域の皆様のあいさつが子どもたちの心に染みこんできたのだと思います。

子どもの成長には、三種類の大人の存在が必要だといわれています。

- ①家族である保護者
- ②学校の教師
- ③地域のおじさん・おばさん

山辺里小学校には、大滝会長さんをはじめとする学校運営協議会の皆様、図書ボランティアの皆様、様々な活動に協力いただいているボランティアの皆様など多くの方々があります。しかし、全国的に見れば、地域のおじさん・おばさんは確実に消えつつあるようです。自分の子どものことで、他人からあれこれ言われるのを嫌う保護者が増えたのでしょうか。それとも、他人の子どもとかかわるのを煩わしいと思う地域の人が増えたのでしょうか。

人間は出会った人の数だけ人生の視野を広げ、人間の幅を広げるといいます。小学校時代に家族と教師にしか出会わなかった子どもは不幸です。

今日も、自分から大きな声で「おはようございます」とあいさつした子がいました。

この子の人間としての幅が確実に広がっていることを実感しました。

10月3日(日)に、大運動会を行いました。ご多用の中、保護者の皆様、地域の皆様からお越しいただき、本当にありがとうございました。ボランティアとして、準備や後片付けにご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。また、子どもたちのために、すばらしいサプライズを企画してくださったアカレンジャー様をはじめ、かかわってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

